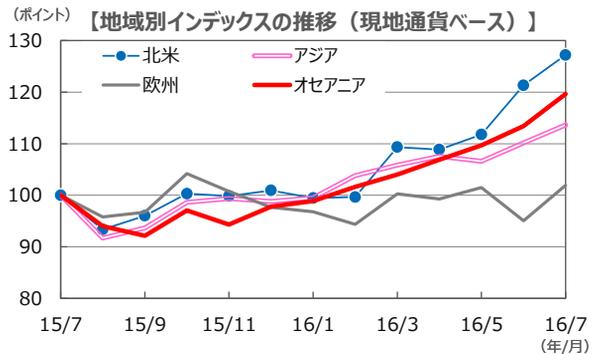


今日のトピック アジア・オセアニアのリート市場の最近の動向 (2016年7月) 底堅い推移が続こう

ポイント1 グローバル市場は大幅上昇 為替はほぼ中立要因

- 7月のグローバル・リート市場は、現地通貨ベースで+5.0%の上昇となりました。前月の英国のEU離脱選択に伴う過度なリスク回避姿勢が後退する中で、原油価格の下落などから長期金利の上昇懸念が後退し、全般に堅調な推移となりました。
- 為替は日本の政策期待などで円安基調で推移しましたが、月末の日銀の追加緩和策が市場の期待を下回ったことで円が急伸し、月間では若干の円安にとどまりました。この結果、円ベースのグローバル・リート市場は+5.4%の上昇となりました。



(注) データはGPRグローバル・ハイ・インカム・リート・インデックス (現地通貨ベース)。期間は2015年7月末～2016年7月末。2015年7月末を100として指数化。
(出所) GPR社のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 豪州、香港が大幅に上昇 金融緩和が背景

- アジア・オセアニア地域を現地通貨ベースで見ると、月間でオセアニアが+5.5%、アジアが+3.2%の上昇となりました。
- オセアニアは、豪州の国内景気が堅調な一方、消費者物価指数の伸び率が過去最低に鈍化、追加利下げ期待を織り込みながら上昇しました。総選挙で与党が下院の過半数を確保したのも安心材料でした。アジアでは、香港で長期金利が2013年以来の1%割れとなったことなどが好材料となり、リート市場は大きく上昇しました。

【各国・地域の騰落率 (7月) (円ベース)】

国・地域	月間騰落率	国・地域	月間騰落率
グローバル	+5.4%	オセアニア	+7.6%
北米	+4.7%	豪州	+7.6%
米国	+5.3%	アジア	+3.1%
カナダ	+1.1%	シンガポール	+0.2%
欧州	+7.4%	日本	+1.8%
ベルギー	+6.2%	香港	+9.5%
オランダ	+6.0%		
フランス	+8.4%		
英国	+6.0%		

(注) データはGPRグローバル・ハイ・インカム・リート・インデックス (円ベース)。
(出所) GPR社のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 アジア・オセアニアの相対的に堅調なファンダメンタルズが支える

- アジア・オセアニアのリート市場は、米欧中の景気動向や金融政策などの外部環境の影響を受けると見られますが、中期的には域内の相対的に堅調なファンダメンタルズを背景に、底堅い推移が予想されます。
- 豪州では、8月2日に市場の予想通り、政策金利が引き下げられましたが、インフレ率は低位にあり、金融政策はしばらく緩和のバイアスがかかると見られ、リート市場には追い風となることが予想されます。

ここもチェック! 2016年8月 2日 豪州の金融政策 (2016年8月) 豪中銀、政策金利を引き下げ
2016年7月29日 日銀の金融政策 (2016年7月) 追加緩和を決定

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。